

オランダのラブレター・マニュアル

ダニエル・モスタールト (Mostaert, Daniel. 1591-1646)

『オランダ語の秘書』1649年(1635年の増補版)

「訪問の手紙集から」

1)

もし貴女様がお心の内で、貴女の僕にご愛顧を示し、ご機嫌麗しく優しくお迎えになろうと思し召されるならば、わたくしが沈黙し無為に過ごすことには耐えられず、こうして愛情とご奉仕の義務を申し述べさせていただきますことを少しは大目に見て下さいますでしょう。と申しますのは目下のところ、やむを得ぬ事情から貴女様のご機嫌を伺いお仕え致すことが叶わぬにもかかわらず、わたくしの心は貴女様にご奉仕の義務と敬意をお示ししたいという願いに絶えずつきまとわれて、それを振り捨てることのできないのです。貴女様がたとえどれほどお忙しく、このようにほとんど無意味な義務の申し出にお目を留めるお暇もないほどであったとしましても、貴女様のご寛容なお心ばえは、それが必ずや貴女様のお心の歓びであろうとわたくしの胸に確信させて下さるでしょう。それゆえ、わたくしが臣下の従順さをもって貴女様にお願ひ申し上げます。この献身と親愛に満ちたご奉仕の義務、わが肩に荷なうべきものとして手紙にしたためております義務をお認めになることが貴女様のお気に召しますように。そしてご奉仕の押し売りと思し召されても、時々はわたくしをお使いだて下さいましたら、その修業によって勇気を得ることができましようし、貴女様にご奉仕する者たちのうちでも比類なく卓越した者となるよう努力致すことでしょう。全能の貴女様の僕であるわたくしをどうかお引き立て下さり誉れを施して下さいますように。

2)

こうして離れている今になって初めて、わたしはあなたをどんなに愛しているか分かりました。今まではいつも一緒にいたものですから、別離の辛さを味わったことがなかったことに気づいたのです。そう思って手紙を書きながらこの辛さを和らげようと努めていると、あなたのそばにいるような気がしてきます。あなたがもしお便りとお言いつけによってわたしに名誉をほどこして下さいお気持ちになるなら、わたしはそれ以上にどれほど多くの義務を果たさなければならぬでしょう。それをわたしは確信しています。なぜなら、愛は昔からの習慣にしたがって心に鳴り響くことを止めないからです。そしてそれがもう鳴り止んでいるとしても、わたしがこうして孤独の中で自分を慰め、あなたの(心の)戸口を叩くことを我慢して下さいお願ひします。というのも、あなたの心が動揺し良心の呵責を感じるまで、わたしは叩くのを止めないでしょうから。

さようなら

3)

あなたにお手紙を差し上げる資格なんてあたしにはほとんどないんです、こんなに

長い間だまり込んでいて、心からご奉仕したいという気持ちをお伝えすることすらしなかったんですから。だからといって、あなたを愛し尊敬する気持ちが前よりも少なくなったということでは決してないんです。だってそんなことってあり得ませんわ。ただ、あたしのほんの小さな価値しかないつまらない事柄であなたを煩わしてしまうのではないかって、それが恐かったんです。あたしにとっては少なからず大事なことでしたから。でもあたしがあなたに忘れられてしまうのと、あなたがあたしの愚かしさにびっくりなさると、一体どっちが損害が大きいかってことにやっと気がついたんです。それであたしの義務にもあたし自身にも十分満足のいくようにしますわ、つまり、このお手紙であなたにあたしの心からの敬意を表して、あなたに対して以前と同じように今もなお、そしてこれからもいつまでも、同じ気持ちでいるってことをお心に止めていただきたいと思います。かつてそうすることがお気に召したように、これからもあたしをあなたのご好意のうちにとどめて下さるようお願いしますわ。あたしのほうはあなたに対して、すべてのふさわしい敬意と尊敬をお示しするのを決して怠りませんから。つねにあなたの満ち足りた召使いであることを証しつつ。

4)

〇〇嬢へ

愛は魂の情熱であり、自分と等しいものから芽を吹き、等しいものによって生きています。愛はそこから養分を汲み取っているのです。ですから愛は、愛しそして愛されている人を誰でもそう容易に養うわけではありません。しかし、あなたのご意志に災いされて何の養分も得られずひたすら「これから」を渴望するしかない私<sup>わたくし</sup>は、愛に滋養を与えることができないのをよく知っています、この愛にはその肉体を養うものが欠けていて、その対象から元気づけられることがないのですから。お嬢様<sup>わたくし</sup>、私の心変わりをご理解下さいますように。それは実際あなたの心変わりと同じものです。自然は人の心を、人の姿かたちが誕生や生長を促したその原理によって保たれている、ちょうどそのように配合しました。根から生れ芽を出したのと同様に、心は自分に足りない養分を吸収するのです。あなたが私を愛して下さるかぎり、私もあなたを愛しましょう。私がこれまで従ってきた規則（evenredeneidt 交換比率）に合わせて、あなたが私に示して下さる愛の多寡に応じて私もあなたへの愛を大きくしたり小さくしたりしながら、愛することにしましょう。私がこれまで法外な高利を耐え忍び、あなたもご存知のとおり、一つのご好意に対してその千倍も、あるいはそれ以上のお返ししてきたとしても、（これからは）私自身を不当に扱うことはしないでしょ。

5)

同等身分の恋人に（女性から男性に）

わたしがいついかなる時もあなたの思い出を心に抱いているのは当然のことですが、あなたが礼儀正しいお心からそうして下さっていることもわたしは同様に存じております。でもそれを証するしがなくては、わたしには十分ではないのです。言葉で語ることはできません、あなたが遠く離れたところにいらっしゃり、ご指示をいただけないのですから。それをあなたにお願いしようとも思いません、わたしがここに

こうしている一方で、あなたにとってご指示をお与えになるほうがそれを実行に移されるよりも困難なほどの状況をよく存じ上げているのですから。ですからわたしは、あなたのお心を思いやり崇敬の気持ちを表しつつ、ペンでお話しようと思います。この胸の思いがわたしをあなたの愛に値するものにしてくれることでしょうか 他のご奉仕によっては、おそばに居させていただくことはできないでしょうから。お元気なあなたからのお便りを待ち望みつつ過ごしております。神に栄光がありますように。

さようなら。

フランスのラブレター・マニュアル

ラ・セール (La Serre, Jean Puget 1595-1665)

『宮廷の秘書あるいは時流に合った手紙の書き方』(1625年初版)

第二部「あらゆる主題についての愛の手紙集」から

〈男性が女性に愛の奉仕を申し出る〉

1) 奥様／お嬢様 (拝啓)

<sup>わたくし</sup>私 が世界中の他の誰よりも多く捧げる貴女様への愛情から、本日貴女様に私の極めて慎ましい奉仕を申し出ざるをえなくなりました。もし貴女様のお気に入りますならば、私は生涯を通じてこの決心を翻すまいとお約束いたします。

奥様／お嬢様 (敬具)、

貴女様の極めて慎ましく従順な僕より

2) 同前

もし貴女様の美しさの絶対的な力が <sup>わたくし</sup>私 に強いることがなければ、私は決して貴女様への尊敬と愛を語るという僭越な振舞いに及ぶことはなかったでしょう。つまりこの粗暴さの言い訳をしなければならないのは貴女様の美しさなのですから、それは私の大胆さについても同じく弁解してくれるでしょう。私が知りたいことは唯一つ、私が永遠にその(貴女様を崇拜する)資格を得ることが貴女様のお気に入るかどうかです。(末尾同文)

3) 同前

<sup>わたくし</sup>私 は貴女様を永遠に愛し生涯を通じてお仕えしようと思決したことを、もはや隠しておくわけには参りません。もし私の愛とご奉仕が貴女様のお気に召しますならば、お気が向いた折にそれをお知らせ下さいましたなら、私はどこにおいても公けに(貴女様を崇拜する)資格を有する者として名誉と満足を得ることでしょう。(末尾同文)

4) 同前

<sup>わたくし</sup>私 は自身の心の平穩のために、もし貴女様が私をその名誉に値する者にご判断下さるならば、貴女様を愛しご奉仕するつもりでおりますことを、ここに言明する必要を感じております。貴女様の優れた価値が私にその義務を負わせ、私の愛情がそうするように強いるのです。(貴女様を崇拜する)資格を有していると最終的に公言する決意を固めるために、貴女様のご意志を知りたいと切に望んでおります。(末尾同文)

〈愛の奉仕の申し出に女性が応える〉

5) 閣下 (拝啓)

貴方様がお示し下さったご好意に対し、<sup>わたくし</sup>私 は深く恩義を感じておりますが、貴方様にこうして謹んで感謝の意を申し述べるのみにとどめたいと存じます。美点をお認めいただいた思い出を大切に胸にしまっておきますこととお約束しつつ、

閣下 (敬具)

貴方様の慎ましい召使いより

6) 閣下

貴方様が手紙を書く労をお取りになり、そこで私<sup>わたくし</sup>に施して下さった名誉に対し、お申し出に感謝する他はありません。お言葉は貴女様の愛の証しというよりむしろ、貴方様が身につけられた型どおりのお作法を感じさせますが、貴方様に対する恩義を忘れることはありませんまい。このことを信じて下さいますようお願いしつつ、

閣下の慎ましい召使いより

7) 閣下

私<sup>わたくし</sup>は、貴方様のお手紙のご主旨にお答えしなかったことを弁解致しません。といいますが、私の意志は絶対的に両親に負っておりますので、貴女様が私からお知りになりたいことをお教えするのは私の両親だからです。貴女様が私にお示し下さったご好意に対し、感謝とともに生涯貴方様の忠実な召使いでありますことをお約束いたします。

閣下

貴方様の慎ましい召使いより

8) 閣下

私<sup>わたくし</sup>の現在おります状況では、貴女様が私になさったお申出をお受けすることもお断りすることもできないことをよくご存知と思います。ですから私は、貴方様の美德に敬意を表し、つねに貴女様の恋人でありたいという私の願いをお伝えして、心のうちの感謝の念を証すことで満足したいと存じます。

貴方様の慎ましい召使いより

〈奉仕の申し出に返事がないことを嘆く〉

9) 奥様／お嬢様 (拝啓)

ご奉仕する決意を固めておりますのに、貴女様が沈黙していらっしゃるのには私のご奉仕がお気に入らないのではないかと、そんな疑念につねに囚われております。貴女様がもし私をご好意に値する者とお認め下さるかどうかが、お気の向いた折に一言でもお知らせいただけましたら幸いに存じます。

奥様／お嬢様 (敬具)、

貴女様の極めて慎ましく従順な僕より

10) 同前

もし貴女様が、どれほどじりじりと貴女様からのご好意あるお返事を待ち望んでいるかをご存知でしたら。それは私に、貴女様の書き物を受け取る名誉を施すお手紙となるでしょうに。貴女様が私の心を落ち着かせて下さる慈愛に満ちた方であることを信じておりますが、私が期待しうるものが貴女様の唯一のご好意ではなく、むしろ私がご奉仕のために抱いております情熱だけだとしますならば、それは何というお慈悲でしょうか、そのご奉仕がお気に召すかどうかとも分からないのですから。私は貴女

様に慎ましく懇願いたすより他なく、お望みとあれば

奥様／お嬢様

貴女様の極めて慎ましく従順な僕となりましょう。

1 1) 同前

貴女様に一生ご奉仕するという私の決意は確かな保証を得て安んじることを必要としておりますので、それが貴女様のお気に召すかどうかお教え願うことを一度も試さないわけには参りません。私はあなたのご好意からこのお返事を期待しております。同様に、貴女様の美德に対して抱きうるすべての尊敬の念を、貴女様は私から当然期待することができるでしょう。他のことでは決して貴女様を煩わせることは致しませんし、つねに

奥様／お嬢様

貴女様の極めて慎ましく従順な僕でないわけには参りません。

〈これに対する女性の返信〉

1 2) 閣下

私は貴方様にお手紙を書く自由を持ち合わせておりませんし、貴方様が私からお知りになりたいと熱望されることをお教えする自由もございません。私の娘としての義務が服従を要求し、貴方様の望まれることについて私が両親に抱くべき尊敬と敬意を傷つけることができないことを、あなたはよくご存知のはずです。けれども、私は貴女様に恩義を感じておりますし

閣下

貴女様の従順な召使いであり続けましょう。

1 3) 閣下

私は沈黙を守ることを決心しましたし、貴方様が私に手紙を書かれるという労をお取りになったそのご意向についてお答えすることはできません。けれども、貴方様が私からの手紙を切望していることは存じております。その手紙は、貴方様が私の価値を認めて下さったのですから、貴方様に深い敬意をお示しすることだけを願う文面となるでしょう。貴方様のご好意への返礼として、どこにあっても

閣下

貴方様の従順な召使いであることを心にとめておきましょう。

〈不在を嘆く〉

〈愛と信頼を表明する〉

〈心変わりをなじる〉(訣別の手紙)

#### 1 4) 奥様／お嬢様

貴女に愛の決定的な証しをお示した後は、貴女のご不在が私の胸に引き起こす悲しみをよもや疑ったりはなさらないでしょう。愛の証しを信じて下さるなら、この悲しみを信じないわけにもいかないでしょうから。このことが、私の苦しみをいくらかは慰めてくれます。貴女がお帰りになるよう敢えて懇願することが許されるならば、私は病人が医師の訪れを願うのと同様に熱烈に懇願することでしょう。私が愛を請け合っているのですから、生死を誓った私の安らぎのためには貴女の愛が是非とも必要です。(末尾同文)

#### 1 5) 奥様／お嬢様

貴女が出発されてから私が日々味わっております悲しみは、世界中の最も鈍感な人に物語ってさえ、必ずや同情を禁じ得ないものでしょう。しかしながら、私は貴女の心にもこの情熱を引き起こしたいと願っているわけではありません。貴女がそれに気づいて下さり、私の愛を、ましてや私の忠誠を疑われることがないならば、それで満足致しましょう。貴女に申し上げておかなければならないのは、私が食欲も休息も失ってしまい、もう何日も昼は何も食べられず、夜は一睡もできない状態で過ごしていることです。私は慰めを友人との会話に求めるべきなのかもしれませんが、ただ孤独の中にしか見出せません。するとあなた自身と同様に苦しみを増すばかりの私の思いは、あなたの残酷さ以外の何も考えさせてくれません。私が世界中で一番惨めな恋人の一人かどうか、どうぞご判断下さいますように。とはいえ、私がこのすべての苦しみを最も価値ある人のために忍んでいるということ、その人のためには千度でも命を捨てるだろうということに、私の慰めがあります。